

地方創生事業費などに関する補正

12月定例会は、12月14日から16日までの3日間の会期で開催されました。福島県人事委員会勧告による勤勉手当の条例改定関係などの議案8件。一般会計・特別会計並びに上水道事業会計の補正予算関係などの議案8件。計16議案を原案どおり可決しました。

補正予算の主な質疑内容



○魅力発信のための事業費とは

総務省の地域創造のための外部人材活用制度を活用し、本町の観光地で観光PR用の映画撮影や新たな特産品開発のための事業。

○県補助金のイノシシ捕獲管理事業補助金で20万円歳入の増額があるが、捕獲対策について新たな動きがあったのか
捕獲頭数の増によるもの。

○介護予防サービス給付費増額の理由は

要支援1・2の方のデイサービスとホームヘルプサービスの利用が当初見込みより増えたことによるもの。要支援1・2の現在のデイサービス利用者34人。ホームヘルプサービス利用者41人で、640万8千円の増額。

○公共下水道の接続率及び、今後新たに公共下水道の拡張はあるのか
平成28年3月31日現在の接続率は56.7%。また、拡張事業については現在は進める予定はない。

○霊園拡張事業計画はあるのか
現段階では拡張の予定はない。

臨時福祉給付金経済対策分給付事業費



臨時給付金の追加交付による補正増
3,967万3千円

地方創生事業費



町PR映画製作費による補正増
300万円

幼稚園大規模改修事業費



棚倉幼稚園増築分設計費及び社川幼稚園改修事業費の補正増
700万円

防犯灯施設整備管理費



防犯灯の設置整備による補正増
159万円

《推薦理由》

昭和42年から50年間にわたり、棚倉町社会福祉協議会の心配ごと相談において無料弁護士相談を引き受け、本町のみならず近隣町村からも多くの相談を受け、町民の心配ごと相談にご尽力されるとともに、里山の保全や整備、郷土愛を育む町の事業支援など、本町の進展に多大の貢献をなされました。



奥野 善彦氏(中央)と
[奥野総合法律事務所]の若手弁護士の皆さん

棚倉町名誉町民
奥野 善彦氏 全会一致で同意

町政を問う

12月定例会では11人の議員が登壇し質疑を行いました。今回は、それぞれの分野で、多岐にわたり質問がされました。次のページからは、要点をまとめて掲載してあります。

一般質問席

1 和知 裕喜 議員 …… 6ページ

1. 近津コミュニティーセンター建設について
2. 寺山集会所改築について
3. 除染事業について
4. 通学路安全対策について

2 佐藤 喜一 議員 …… 7ページ

1. 学力向上支援推進事業の実績を問う
2. 街路灯、防犯灯の整備事業を問う
3. 京セラ棚倉工場営業停止後の経過を問う
4. 文化財保護事業、埋蔵文化財調査事業を問う

3 近藤 正光 議員 …… 8ページ

1. 近津運動広場の整備について
2. 棚倉駅前駐輪場の整備について
3. 棚倉スポーツクラブについて

4 古市 泰久 議員 …… 9ページ

1. 第6次振興計画による実施計画(平成29年度～31年度)に係る新規事業の事業内容等を問う
2. 戊辰戦争150年にあたる記念事業について
3. 幼稚園の教諭配置と職務内容について問う

5 佐川 裕一 議員 …… 10ページ

1. 老夫婦世帯、一人暮らしのお年寄りに対する日頃の安否確認と生活支援策について
2. JR水郡線利用促進策を問う
3. 汚染土壌の中間貯蔵施設への輸送について
4. ロタウイルスワクチン予防接種について

6 藤田 智之 議員 …… 11ページ

1. 空き家対策をどのように進めるか
2. 子どもの貧困対策を問う
3. 総合体育館の通路等の整備について

7 鈴木 政夫 議員 …… 12ページ

1. ふくしま森林再生事業の取り組みを問う
2. 保育行政の問題点と改善点について
3. 田楽橋付近の町道整備について
4. 町道中居丸内線役場前の約束履行問題について

8 和知 良則 議員 …… 13ページ

1. 城下町棚倉の観光に絡めた施策について
2. スポーツの町棚倉を施策に掲げてはどうか
3. 町道段河内・平塩線の道路改良工事について問う
4. 成人式について問う

9 松本 英一 議員 …… 14ページ

1. 「構造改革特別区域法」に設けられた「濁酒(どぶろく)特区」について問う
2. 社川小学校のオープンスペースを個別教室に改修してはどうか

10 藤田 光子 議員 …… 15ページ

1. 歴史の町、棚倉に残された棚倉独自の芸能文化の継承について
2. 棚倉駅周辺の活性化について
3. 棚倉高等学校の建物、跡地について

11 菊池 忠二 議員 …… 16ページ

1. 第6次振興計画における働く場の確保について問う
2. 町民が納税をされた予算の執行のあり方について問う
3. 認知症予防、生活習慣病予防について問う

議案の討論



「議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例」についての討論が行われました。

反対討論 (鈴木政夫議員)

現段階で議会議員の報酬、期末手当及び費用弁償について、引き上げる必要はない。平成27年で議員に支給された額は348万9千円であった。町民の中でも年収300万円以下が7千90人もいる。したがって、この議案については引き上げる必要はない。しかし、職員の給与の引き上げについては当然のことであること付け加えて反対の討論とします。

賛成討論 (蛭田卓雄議員)

今回、提出された条例は、福島県人事委員会の勧告に準じて改正されたもので、議員の期末手当も同様に改正するのが適当であり、今回の条例改正は妥当と考え、本条例に対し賛成します。

採決結果

- 賛成者(10名)
 松本 英一、和知 裕喜、蛭田 卓雄、須藤 俊一、藤田 智之、藤田 光子、古市 泰久、鈴木 政夫、和知 良則、佐川 裕一
- 反対者(3名)
 菊池 忠二、近藤 正光、佐藤 喜一

12月補正予算の状況

会 計 名		補 正 額	補正後の予算額
一 般 会 計		△2,242万円	69億9,383万円
特 別 会 計	後期高齢者医療	10万円	1億2,935万円
	介 護 保 険	△304万円	13億8,949万円
	簡易水道事業	△280万円	1億324万円
	公共下水道事業	△162万円	2億7,515万円
	農業集落排水事業	△258万円	6,997万円
	霊園整備事業	132万円	206万円
事 業 会 計	収 益 的 収 入	417万円	4億3,358万円
	収 益 的 支 出	△163万円	13億9,102万円

1万円未満切り捨て

陳 情

- ◎「教育予算確保並びに施設等の充実に関する陳情書」
提出者 棚倉町立学校PTA連絡協議会
- ◎「棚倉町商工会助成事業費(地域貢献事業)補助金の交付について」
提出者 棚倉町商工会 会長 立石 誠
- ◎「森林・林業基本計画」の推進を求める陳情書
提出者 全国林野関連労働組合
関東地方本部棚倉森林管理署分会
執行委員長 秋山 広正

人 事 案 件



再任された
石井恵美子 氏

固定資産評価
審査委員会委員
石井 恵美子 氏 再任

問 近津コミュニティセンターの建設は 現在のところ整備の計画はない

問 近津地域の活動の場や八槻都々古別神社、山本不動尊の観光施設やJR水郡線の活性化のためにも、近津駅前などにコミュニティセンターが必要と考えるが。

町長 町には文化センター、図書館、体育館など活動場所として利用できる施設があることから、新たな施設を整備する必要性は低いと考える。

問 寺山集会所改築について 答 耐震改修を行ってまでの貸与は考えてない

問 前回の質問の時、2階建ての建物で耐震上の問題のために調査が必要であると言った事であったが調査はしたのか。

町長 老朽化した建物のため耐震調査後の在り方を考えた結果、耐震調査は行っていない。

問 現在、避難所になっている



老朽化した集会所

が万が一事故等が発生した場合、誰が責任をとるのか。

町長 緊急的な集合避難場所であり、そこが危険な場合は、指定避難所に避難をする。災害発生から安全な場所まで避難する過程の責任は基本的には自己の責任になる。

問 現在の建物では危険な状況にあるため、町で耐震改修工事等を行い、その後貸与すべきと思うが。

町長 普通財産である当該建物の耐震改修を行ってまでの貸与は考えてない。

問 除染事業について

答 今年度末には終了する予定

問 現在までの各住宅、事業所等の除染の進捗状況はどうか。

町長 今年度施工分も含め、全ての除染が年度末には終了する予定。

問 仮置き場より中間貯蔵施設への搬出の現況は。

町長 山本仮置き場に保管してある除染土壌等から輸送を開始しており全量を今年度中に輸送する。

問 各学校、幼稚園、保育園等の校庭や園庭の土の中に仮置きされている物の搬出予定は。

住民課長 平成29年度に通常の搬出割り当てとは別枠で搬出する。



問 通学路安全対策について
答 今後、年1回の合同点検を行い必要な対策を見直していく予定

問 ため池除染の実施場所の数や実施計画はどうか。

町長 ため池2箇所です。詳細調査の結果を基に実施計画に向けて協議する。



和知 裕喜

問 小中学校の全国学力テストの結果は 答 小学校は、全て県平均を上回る

問 小学校の6年生、中学校の3年生で実施している全国学力、学習状況調査の結果はどのような成果になったのか。

教育長 小学6年生については、すべての領域で県平均を上回り、国語A、算数A・Bでは全国平均を上回った。中学3年生では、国語A、数学A・Bで県平均を上回る結果となった。

教育長 高校生とも何かしらの接点を持ってキャリア的な育成が一緒に出来るようにするのは今後の大きな課題と考える。

問 当町には、5つの小学校があるが、将来的に統合する考えはあるのか。

子ども教育課長 今後のことについては、振興計画の中において十分な議論をしていきたい。

問 町内街路灯の運営、指導は 答 自主運営のため指導は行っていない

問 町内の街路灯に係る団体の組織、また指導や運営はどのようになっているのか。

町長 運営に関する団体は24団体あり、そのうち22団体は棚倉町街路灯組合連合会に加盟している。各団体は自主運営となっているので、指導は実施していない。



老朽化している街路灯

問 駅前の通りは非常に暗いため、図書館の駐車場にも防犯灯を設置する必要があると思われるが。

生涯学習課長 内容を調査し、十分検討していきたい。

問 JA東西しらかわより寄贈された防犯灯の設置は。

住民課長 3月末までには設置を完了したいと考えている。



佐藤 喜一

問 今後の京セラ棚倉工場の利用情報は
答 京セラから町へ報告できる段階に至っていない

問 現在、閉鎖されている工場の利用希望情報について町としてはどの程度まで把握しているのか。

町長 問合せの窓口を前工場長として連絡を取っているが、新たな操業の見込みについては町へ報告できる段階に至っていない状況であると確認している。

問 文化財保護事業と埋蔵文化財調査事業の成果は
答 町まるごとミュージアム事業等を開催し、東北の小京都棚倉の魅力を広げ、県内外に発信できた。また、埋蔵文化事業では国指定史跡流廃寺跡の保存活用計画、棚倉城跡の調査事業を実施している。



問 コミック版の「棚倉むかし話」が「殿様」が発刊されているが、記念事業として続編を出してもらいたいという町民の声があったので、ご検討をお願いしたい。

町長 提案として受け止める。

問 歴史資料館と弓道場の建設を記念事業として企画立案してはどうか。

町長 歴史講座等のテーマとして取り上げるなど検討する。

問 会津若松市は既に、歴史や文化の再認識を通じた情報発信と観光事業を目的とする記念事業の実行委員会を設立しているが、本町においてはこのような動きはあるのか。

問 戊辰戦争150年の記念事業は
答 取り組みは予定していない

問 平成30年度から2クラスでの実施となるのか。
子ども教育課長 25人程度で3

問 新築工事の時点で、3歳児保育を実施する計画があったはずであり、今回、教室を増築するのに4千万円の予算計上する計画の必要性がなかったのでは。
子ども教育課長 新築の時点では、3歳児保育について将来実施することが決定されていなかった。

問 増築工事の内容について。
町長 平成30年度から3歳児保育の本格的実施に伴い、保育室が不足するため、4千万円の事業費を予定している。

問 棚倉幼稚園の施設整備事業について
答 3歳児保育の実施に伴う増築工事を予定している

クラスを想定しており、1クラス不足のため増設する考えである。



幼稚園入口側園舎に増築予定(柵で囲んでいる箇所)

問 幼稚園教諭の配置と園長の職務内容と責任について
答 各年次クラスに1名配置、園長は全体の統括責任者を担う

問 高野幼稚園は2クラスで、兼任園長と教諭2名の配置だが、1名が休んだ場合はどのようにしているのか。

問 嘱託園長は、月に15日以内の雇用契約だが、休みの日に、重大な事故が発生した場合、誰が責任をとるのか。
子ども教育課長 園長が不在の場合は、教頭が園務の責任者となる。

問 合同保育で2クラスを1クラスにして1名の教諭で教育が出来るのか疑問が残る。大きな事故が発生したら問題であるので検討すべきでは。
教育課長 合同保育は便宜上、実施している。

問 合同保育で2クラスを1クラスにして1名の教諭で教育が出来るのか疑問が残る。大きな事故が発生したら問題であるので検討すべきでは。
子ども教育課長 合同保育という手法を臨時的に実施しているのが実態である。



ふる いち やす ひさ
古市 泰久

問 近津運動広場は町内にある運動広場の中で、グラウンドの土の質、水はけの良さはトップクラスで、ソフトボールや野球の会場として適しており多くの人に利用されている。
ただ、グラウンドの3塁側に民家が1軒ありファウルボールが民家に直撃し危険な状態である。また、バックネットの裏側には墓地がありネットを越えたボールが墓石等にあたり好ましくない状況にある。
グラウンドの3塁側に防球ネットの設置及びバックネットの改修をしてはどうか。
教育課長 3塁側に民家があり、ボールが飛んでいくことが十分考えられるので今後、防球ネットの設置を検討する。バックネットの改修も現在簡易的な改修をしているが、全面的な改修を考えている。

問 棚倉駅前駐輪場の整備を問う
答 駐輪場の形態や設置場所を検討する



整備が待たれる近津運動広場

問 この駐輪場は、主に石川郡山方面に通う高校生等が利用しており駅前の重要な自転車置き場である。冬場の季節になると風が強くなり自転車倒れ、そのままの状態になっている。また、雨や雪が降っているときは自転車のサドルが濡れ自転車に乗れない状況であり通学に支障をきたしている。現在の利用者は何人ぐらいなのか。また、雨風をしのぐ屋根を設置すべきだと思うが。
町長 利用者は20人程度。駐輪場の賃貸借契約が29年度末なので契約更新の有無も含め、形態や設置場所を検討する。



棚倉駅前駐輪場

問 棚倉スポーツクラブを設立して5ヶ月が経過したが予算及び事業内容は、また会員数はどの位になったのか
予算は360万円で事業内容は、総合体育館やルネサンス棚倉を会場にレクダンス、テニス、フィットネス等の10教室、その他、イベント等を開催している。会員数は12月1日現在で148名

問 県内59市町村でスポーツクラブを設立した数は。また、活動状況は。
生涯学習課長 昨年で49市町村、87のスポーツクラブを設立。うち、6クラブが休止状態。



こん どう まさ みつ
近藤 正光

問 空き家は、うまく利用できれば、財産として活用できるが、放置すれば社会問題ともなる。調査結果をどのように生かし、どのように取り組むか。

町長 27年度の調査では256軒に空き家の可能性があった。所有者に意向調査を行ったところ57件について有効活用を希望する回答があり、うち5件について空き家情報登録を受付した。今後は町のホームページなどに掲載し広く情報提供に努めたい。町内の宅建



対策が待たれる空き家

問 町内の空き家数は
答 27年度の調査では256軒

問 子供の6人に1人が、相対的な貧困状態にあるとされ、大きな社会問題となっているが、町としての対応は。

町長 生活保護や児童扶養手当などの支援は元より、県の制度であるが、進学・就職支度・生活資金などの無利子の資金があり、さらには、ひとり親家庭の父母を対象とした資格取得のための費用助成の支援を行っている。

今年度、県において国の交付金事業を活用して、子どもの貧困実

問 子供の貧困対策を問う
答 財源確保と制度の充実を国に要請

業者の協力があれば、協定を結ぶことなども検討したい。

改修の補助金も県の制度に乗せて町独自に用意している。必要があれば他団体とも協力し、対策を進めていきたい。

問 就学支援を受けている人数と費用は。

子ども教育課長 小中学生合計で83名に学用品や給食費などを支援し、予算的には860万円を計上している。

問 グラウンドへの階段が危険では
答 整備に向けて検討している

問 総合型スポーツクラブが発足し、スポーツの普及に取り組む中、グラウンドへの階段など、総合体育館の周囲を、計画的に整備すべきではないか。

問 就学支援を受けている人数と費用は。

子ども教育課長 小中学生合計で83名に学用品や給食費などを支援し、予算的には860万円を計上している。

態調査が行われており、その結果に基づき、子どもの貧困に対する支援計画を国が策定することから、子どもの未来を応援する首長連合を通して、子どもの貧困対策のための財源確保と制度の充実を関係省庁へ要請していく。



整備が待たれるグラウンドへの階段

問 振興計画への計上の有無にこだわり過ぎではないか。

町長 事業自体の必要性や優先度の高さで判断して行きたい。

教育長 現況のグラウンドへの階段は段差があるため高齢者には不便をきたしているので、安全性を考慮しながら整備に向けて検討している。公園等をどのようにするかは、今後検討したい。現在のところ、具体的な整備計画を立てる考えはない。



藤田 智之

問 JR東日本の廃線の基準と、今後の状況は。

町長 廃線の基準は設けておらず、路線を廃線することは相当難しい。棚倉駅の一日当たりの平均利用者数から予測すると、路線の廃止はないものと考えている。



路線廃止は無いと考えられるJR水郡線

問 町の水郡線利用促進策は
答 沿線自治体との連携を図っている

問 介護保険サービスを受けようとしている方は、ヘルパーやケアマネージャーが定期的に訪問しており、特に一人暮らしの方は、緊急通報装置の設置や、配食サービスによる安否確認を行っている。2015年度からは、町内事業所と

問 老夫婦世帯、一人暮らしのお年寄りに対する日頃の安否確認と生活支援策について
答 緊急通報装置の設置を普及

問 利用促進策は。

町長 水郡線活性化対策協議会や福島県鉄道活性化対策協議会などを組織しており、JR本社や関係省庁へ利便性改善や施設整備の要望活動の実施や観光キャンペーンを実施し利用促進に努めている。

問 日常生活における支援と、日常生活支援等に使用できるタブレット端末の導入を検討しては。

町長 介護保険サービスによるホームヘルプサービスや軽度生活援助事業、各地区民生委員さんによる見守りなどを行っている。

タブレット端末の導入は、高齢者は取扱いに苦労する方が多いことから、特に一人暮らしの方については、緊急通報装置の設置を普及していきたいと考えている。

問 日常生活における支援と、日常生活支援等に使用できるタブレット端末の導入を検討しては。

町長 介護保険サービスによるホームヘルプサービスや軽度生活援助事業、各地区民生委員さんによる見守りなどを行っている。

高齢者見守りネットワークに関する協定を結び、安否確認の協力をいただいている。

病気・ケガ等を発見した場合の対応は、健康福祉課高齢者係や地域包括支援センターへ連絡が入り、緊急通報装置だと連絡先が登録されている保護者へ連絡が入ることとなっている。



問 ロタウイルスワクチン予防接種を問う
答 国において定期接種化について、審議が進められている。これらを踏まえて検討したい

問 汚染土壌の中間貯蔵施設への輸送を問う
答 輸送費用の全てを環境省の費用負担で行うことになっている



佐川 裕一

問 ふくしま森林再生事業の取組みを問う
答 次期計画は、現計画以上を視野に検討



森林再生事業の様子(中山本地区)

産業振興課長 平成25年度の当初計画であったため、県や町が30haか50haが適正であったのか見極めが出来なかつたので、次期計画においては、30haにこだわらず50haか、それ以上も視野にいて検討したい。

問 保育園の待機児童の解消と、町立化について

答 来年度の待機児童は、ある程度解消されると考えられる

問 新しい保育園が、平成30年度に開園する計画になっているが、その間の待機児童の解消をどのようにして解決するのか。

また、棚倉保育園が新しくなる機会に社会福祉法人ではなく、町立にすべきでないかと考える。併せて、棚倉町ではなぜ町立でないのか見解を求める。

教育長 待機児童対策としては、来年度の幼稚園の3歳児保育としては、2クラス合わせて50名で実施する予定であり、これにより待機児童がある程度、解消されていくものと考えている。

保育園の町立については現在、社会福祉法人が運営しているのので、今後ともその推移を見守り、支援をしていきたいと考えている。

問 待機児童は何人いるのか。
子ども教育課長 11月1日現在で11名。



問 田楽橋付近の町道整備はなぜ進まないのか

答 地権者から金額提示があるも、町との開きがあり合意に至らず

問 田楽橋周辺の町道整備の進捗状況は。

町長 現在、地権者から提示された買収金額に対し、町の金額を提示し交渉を継続しているが、金額に開きがあり合意に至っていない。今後の交渉も見守って頂きたい。

問 町道中居丸内線の地権者への約束をなぜ町は果たさないのか

答 引き続き、業者へ要請をしていく考えである



和知 良則

問 町民体育大会が種目によっては参加チームがなく実質ゼロの競技がある。町民の大会となっているからには、町としても何らかの対策が必要では。

教育長 各競技団体と連携しながら、多くの町民が参加できるように努めて行く。
生涯学習課長 体育協会が主催でやっているが、競技チームが年々減っている。今後、各団体と連携を深め、新たな競技という事で検討していきたい。

問 町道段河内平塩線は計画通り実施されるのか

答 大内集落の入り口まで実施する予定である

問 坂下橋付近の改修について、何らかの進展はないのか。
整備課長 今回の工事が完了した後に、整備を進めて行くよう検討していく。

問 城下町棚倉の観光に絡めた施策を問う
答 観光協会城跡支部(仮)を協議していく

問 戊辰戦争で戦った棚倉藩勇士十六ささげの剣舞を作成し、観光施策としては。

町長 経緯・経過を含め、調査をしていく。

地域創生課長 歴史的なかかわり合いについても併せて調査をしていく。

問 城下町棚倉にふさわしいスポーツ道場を整備し、普及を図っては。

生涯学習課長 活用できる補助金等を見つながら検討していく。

問 棚倉城跡は観光協会のどの支部に属しているのか。

町長 現在属している支部はない。当時をしのげる魅力ある観光資源を広く発信していく必要性を感じ、地元関係者と協議をしていく。

問 棚倉小唄を継承し、祭典や催し物で披露しては。

町長 観光施策の一部として、棚倉盆唄踊り保存会と協議をしていく。

問 スポーツの町棚倉として施設の充実を図っては

答 夜間照明灯については調査検討していきたい

問 運動広場の夜間照明灯が老朽化している。今の柱でも2m位の高上げが可能と聞いている。修理の際には高上げをし、電球の数を増やしては。また、南側にも夜間照明灯を設置してはどうか。

教育長 経年劣化等により破損している個所が見受けられる。電球の数を増やすことについても同様、今後調査検討をしていく。南側の夜間照明灯については、設置の必要性も含め、検討していく。



老朽化している夜間照明

問 各運動広場の用具入れが老朽化し壊れている。取り換えが必要と思うが。

生涯学習課長 用具入れは各ソフボール協会、野球協会の所有であり、特別補助は出していない。今後、協議を進めながら検討していく。



鈴木 政夫

問 どのぶろく特区を設けてはどうか 答 要望があれば申請する

問 構造改革特別区域法に設けられたどのぶろく特区を申請し、町の特産物を掘り起こし販売しては。

町長 構造改革特区とは、規制緩和を認めた限定地域を設けることで、地域経済の活性化を図ろうとする制度である。

どのぶろくを特産品としてその地区で提供することは、新規産業や雇用の創出など地域活性化につながる一手法であると認識している。

今後、どのぶろく特区を希望する農業者、団体等からの要望があれば申請に向けて協議をする。



区切りが無い教室

問 社川小学校のオープンスペースを個別教室に改修してはどうか
答 大規模改修時に、対策を検討する

問 隣の教室との区切りがなく気が散れて勉強に集中できないので早急に改築できないか。

町長 社川小学校は、平成4年度に文部省の「文教施設のインテリジェント化に関するパイロットモデル研究」の指定を受け、特色ある文教施設の整備計画に基づき、平成9年度に、教室エリア、特別教室エリア、管理棟エリア等をスロープ形式の楕円形廊下で結び、それぞれの教室等にオープンスペースを設け、学級、学年を超えた学習を可能とし、児童の心の開放や自主性・能動的姿勢を作りだせることを目的に一体感のあるオープンスペース型の学校として整備させた。

現在は、箱型校舎の一部をオープンスペース型とする校舎のタイプが、多く整備されており、本校の様なフルオープンの学校はごく一部であるため、本校勤務の教師からは、授業に影響があるとのことと、仕切り設置の要望があったので、平成26年度から教室との間に仕切りを設置し、隣の教室との区切りをしてきている。



本校は、通常の天井ではなく吹き抜けになっているので、完全な個別教室への整備となると、大規模な工事となり多額の費用が掛かるため、大規模改修については、振興計画の中で検討したい。



まつもと えいち 松本 英一

問 棚倉独自の芸能文化の継承について 答 各団体と連携し、保存・継承していく

問 歴史を語る上で欠くことのできない生きた証である一般住民が次世代に伝え、守ってきた棚倉独自の芸能文化を遺跡同様大事に伝承し機会ある毎に披露してはどうか。

教育長 棚倉町文化団体連絡協議会があるので、今後も各団体と連携しながら保存、継承していくと共に披露できるよう努める。

問 時の流れと共に言葉、地名、曲調、踊りなど、大切に保存しなければ消滅してしまう危機感があるが継承していく為の方法について。

教育長 今年度から平成30年度にかけて行う歴史文化基本構想策定の中で検討しながら調査をすすめていく。



寒い中、バスを待つ町民

問 棚倉駅周辺の活性化について
答 駅前整備については、現時点では、具体的な計画はない

問 訪れた人達が快く過ごせる環境対策を進めるといふ振興政策のなか、現状をどうとらえているのか。

町長 環境整備事業については住民相互の交流場所として図書館を整備してきた。

問 駅は町の顔、水郡線の利用者数を増やす取り組みや、観光客の誘致を考えた時、明るく活気のある町として、待ち合わせ時間も楽しめるような環境整備が必要である。水郡線、JRバス各社、社屋跡地、周辺の土地についてどのように考えているのか。

町長 JR東日本水戸支社とは町民からの意見や要望等も含め話し合いをしている。



問 棚倉高等学校の建物、跡地について
答 県に対し、早急な取り壊しをするよう要望している



年々、荒れてきた旧棚倉高校



ふじた みつこ 藤田 光子

問 継続して質問にあがっている課題だが進展がみられず様々な不安の声が出ている、今後についてどのような考えがあるのか。

町長 周辺地域の防犯や跡地利用促進の観点から、早急な取り壊しを要望している。

利用については今後も管理者との連絡調整を蜜に図っていく。



田村市役所において説明を受ける様子

「棚倉町の企業誘致推進策について」 建設経済常任委員会を開催 先進地「田村市」へ視察

平成28年11月22日 午前は産業振興課長より本町の企業誘致施策について説明を受けました。午後からは、田村市役所へ移動し説明を受け、その後、現地視察を行いました。



現在造成中の田村市産業団地。広さは16ha。平成31年までの約5年間で完成予定。



現地(田村西部工業団地)を視察。多くの企業が操業している。

田村市では、大きく2ヶ所の工業団地があり、現在も工業団地を整備し企業誘致を図っている。

棚倉町通年議会導入に向けて

地方議会はこれまで毎年「条例で定める回数」により招集されてきました。棚倉町議会も定例会の回数を4回とする条例により今日に至っております。

しかし、地方自治法が平成24年9月に改正され、1回の招集で年間を通じて議会を開くことが出来るようになりました。

地方自治法102条の2には「条例で定めるところにより、定例会及び臨時会とせず、毎年、条例で定める日から翌年の当該日の前日までを会期とすることができる」との一条が新たに追加されました。これが、「通年会期制」です。

棚倉町議会運営委員会は、昨年10月18日から19日の2日間、石川県内灘町、中能登町へ議会運営の研修を行いました。両町とも導入したばかりではありますが、前号でも紹介したように議会運営上では多くのメリットがあります。

研修を受けたことで、議会運営委員全員が、本町の議会においても導入すべきであるという意見で一致しました。今後、通年議会導入に向け全議員で検討していきたいと思っております。

棚倉町議会運営委員会

委員長 鈴木 政夫

- 建設経済常任委員会**
- 委員長 菊池 忠二
 - 副委員長 古市 泰久
 - 委員 佐藤 喜一
 - 委員 近藤 正光
 - 委員 佐川 裕
 - 委員 鈴木 政夫
 - 委員 大相 守

問 働く場所の確保について問う

答 企業誘致、地場産業の基盤強化が必要

問 近隣の町村は広域行政の推進として大事なパートナーだが企業誘致ではライバル、当町独自の施策は有るか。

町長 目玉政策は町内外の企業に規模拡大や新規事業への補助金等の案内、関連企業の誘致、雇用確保に努めている。

問 当町に於ける福島産業復興企業立地補助金の申請状況と、今後この県の事業は続くのか。

産業振興課長 現在、申請の事実は確認してない、又この事業自体は続いて行くかと理解している。

問 最近、当局では町内企業訪問されたか、又その目的と感想は。

産業振興課長 11月に5件、現状や今後の見通し、来季の求人状況を伺い、結果概ね悪くないという感想で今後は地場産業の訪問も商工会工業部会と連絡しながら予定していく。



産業サポート白河

問 首都圏から見た立地条件は決して悪くなく災害の少ない我が町の魅力を発信すべきで企業誘致のパンフレットも、大まかなものと、タイムスケジュールなどを示したものを2枚作成すべきだし、更には県議を始め、与党議員に協力を頂き、国、県の事業を積極的に誘致して行くべきと思うが。

産業振興課長 現在パンフレットは無いが、ご意見を参考に作ってゆくと、企業誘致推進員も新たな構成メンバーでお願いしてゆく、県の事業にも働きかけをして行く。

問 産業サポート白河と、これからどう関わって行くのか。

町長 昨年度の企業訪問は94件、産業サポート紹介でビジネスマッチングの実績もあると聞いている。

問 町民が納税をされた予算の執行のあり方について問う

答 予算の編成及び事業の実施計画作成時に町民の要望があれば計上している

問 2期目の町長らしい予算執行の項目は第6次振興計画に於ける投資的経費なのか。

地域創生課長 町長の施策はハード面ばかりでは無い。

問 各団体や行政区等がもっとダイレクトにその提案や要望実現に積極的に関わる事ができないか。

町長 事業の所管課及び、担当課で緊急性、必要性、優先順位など検討して予算に反映していく。



問 認知症予防、生活習慣病予防の事業を問う

答 ヘルスツーリズム事業を認知症予防の事業として実施、又国保事業で生活習慣病重症化ハイリスク者に訪問指導を実施している

きく池 ちゅうじ 菊池 忠二

言わせて一言

人を・心を・時をつなぐたなぐらまちに

住む皆様にご意見、ご感想を伺いました。

避けて通れない少子高齢化の中にあつて、地方財政は容易でないようです。それでも子供たちのために、あるいは高齢者のための議論が重ねられている姿は、議会だよりを通し知ることができ、大きな役割を果たしています。

特に棚倉町は合併して六十年が経過し、棚倉町を内側から、時には外側から質の高い視点の質疑が交わされている様子は、町政の節目のよりに感じます。

今年の干支は酉年。棚倉町の南部・中部には格式のある神社が二ヶ所あります。その入り口にはそれを象徴する大きな「鳥居」がありますが、西と鳥居の神話にあやかり、歴史と文化の町づくりのために、議員各位の活躍と「議会だより」の充実を期待します。

逆川にお住まいの
山口 昂太郎さん



花園にお住まいの
高萩 幸一さん



私は長年に渡るサラリーマン生活が終わり、現在では農業に勤しみ始めたところです。

今まで議会を傍聴したことはなく、無関心さを露呈するようで恥ずかしい限りですが、時間的なゆとりが出来たところで、元アメリカ大統領ケネディ氏の言われた「国があなたに何をしてくれるかではなく、あなたが国のために何ができるか考えて欲しい」とを旨とし、一町民として行動して行く考えです。

現在、多くの学童通学者や近隣住民が最も困っている田楽橋整備工事を早期に実施していただき、安全・安心な生活道路を確保すべきです。

最後になりますが、議員皆様の一層のご活躍を期待します。

あなたも議会を傍聴しませんか

傍聴の手続きは、役場庁舎3階の傍聴席入口で住所と名前を書くだけで、どなたでも傍聴できます。

次回の定例会 (予定)



3月 8日(水) 開会・本会議
9日(木) 本会議・委員会
10日(金) 一般質問
11日(土) 休会
12日(日) 休会

3月 13日(月) 一般質問 (午後)
14日(火) 特別委員会
15日(水) 特別委員会
16日(木) 休会
17日(金) 本会議・閉会

編集後記

昨年は、自然界を含め身近においても思いもよらない出来事が続く一年でした。

新たな年を迎え、一段と気を引き締め何事にも取り組んでいきたいと思っています。

広報編集常任委員会では、一人でも多くの皆様に読んで頂けるような紙面づくりを全員で心がけていきます。

本年もよろしくお願ひします。

広報編集常任委員会

委員 藤田 光子

広報編集常任委員会

委員長 藤田 智之
副委員長 鈴木 政夫
委員 藤田 光子
委員 菊池 忠二
委員 近藤 正光